

久米島町猫繁殖抑制事業について

1. 事業開始の経緯

本町内には常設の動物医療機関が存在せず、不妊手術や継続的医療対応を島内のみで完結することが困難な状況にあります。

また、本町には大規模な公的保護収容機能や保護管理体制が存在しておらず、当時より、島外医療機関や島外協力団体との連携を前提とした対応体制が必要となっていました。

そのような状況の中、2018年～2019年頃には、環境保全課へ猫に関する相談・苦情、多頭飼育化に関する相談等が増加していました。

また、公共道路上における猫の交通事故死等も多く確認されていたほか、管理されていない猫の増加による生活環境への影響や、久米島の自然環境・保全すべき野生生物への影響等も指摘されており、地域課題として対応が求められていました。

こうした状況の中、島外の非営利法人より猫の不妊手術キャンペーン実施に関する申し入れがあり、本町との協議・調整を経て、2019年に久米島内において不妊手術キャンペーンが実施され、本町も実施にあたり一定の協力・調整を行いました。

事業主体が当該組織であったため、当時の詳細な記録は町側には残っていませんが、当時の関係者より共有を受けている資料上では、約150頭（147頭）の不妊手術が実施されたとされています。

この実施を契機として、島内における未手術猫の多さ、多頭飼育化リスク、および継続的な繁殖抑制の必要性が可視化され、その後、関係者・議員等との協議を経て、久米島町独自の継続的繁殖抑制事業が開始されました。

2. 久米島町繁殖抑制事業（2021年度～）

2021年度以降、久米島町では継続的な猫繁殖抑制事業として、不妊手術キャンペーンを実施しています。

本事業は、久米島町環境保全課を中心に、島内協力者・島外協力団体のボランティアと連携しながら実施してきました。

事業初期は、現場対応を優先した試行的運用も多く含まれていましたが、その後、継続事業化に伴い、制度設計・現場対応を段階的に整理し、現在の継続管理体制へ移行しています。

また、不妊手術キャンペーン実施にあたっては、現地調査、捕獲、搬送、個体データ管理等、多くの現場対応について島内外協力者の協力を受けながら運用されてきました。

また、島内での維持管理対応が困難な個体については、島内ボランティアによる一時保護を経て、沖縄本島医療機関での手術対応や、保護・譲渡調整等も並行して実施されています。

3. 久米島町不妊手術キャンペーン実績一覧

本事業は、久米島町による公的事业として実施されており、島内外の協力団体・ボランティア等の協力を受けながら運用されています。

回	実施時期	手術日数	手術総数	オス	メス	現場引上げ数
第13回	2026年1月	3.5日	119	69	50	19
第12回	2025年7月	3.5日	74	38	36	20
第11回	2024年11月	2.5日	83	44	39	17
第10回	2024年7月	1日	21	8	13	22
第9回	2024年5月	2.5日	45	21	24	25
第8回	2023年11月	1.5日	53	33	20	18
第7回	2023年7月	1.5日	60	34	26	27
第6回	2023年4月	2.5日	85	46	39	13
第5回	2022年11月	2.5日	65	42	23	(整理中)
第4回	2022年7月	2日	72	40	32	(整理中)
第3回	2022年4月	2.5日	51	30	21	(整理中)
第2回	2021年7月	2.5日	102	48	54	(整理中)
第1回	2021年3月	1.5日	32	24	8	(整理中)

久米島町不妊手術キャンペーン累計実績 (2026年1月時点)

- 不妊手術実施数：862頭
- オス：477頭
- メス：385頭

2019年に島外非営利法人主体で実施された不妊手術キャンペーン(147頭)を含めると、2019年以降、久米島町内では累計1009頭の不妊手術が実施されたこととなります。

また、繁殖抑制事業の実施過程において、子猫、多頭化リスクが高い現場、継続管理が困難な現場個体等については、島内外ボランティアの協力のもと、現場からの引上げ対応や、島外協力団体との連携による継続管理・譲渡調整等も行われてきました。

協力関係者より共有・報告を受けたデータ上では、2019年以降、約640頭の猫について、現場からの引上げ対応が確認されています。

なお、これらの対応は主に島内外の保護団体・ボランティア等による保護活動として実施されており、本事業はその協力を受けながら運用されてきました。

さらに、2019年以前から継続的に現場対応や個体管理等を行ってきた協力関係者より共有を受けたデータ上では、2019年以降の累積介入頭数は約1500頭分となっています。

※不妊手術実施数・保護頭数・累積介入頭数については、キャンペーン実施関係者間より共有された記録をもとに掲載しています。

※累積数には、民間団体による保護・引上げ対応、島外搬送、島内譲渡等を含むほか、再捕獲個体、ワクチン接種のみ対応個体、未手術島外搬送等も含まれるため、単純合算とは一致しません。

※「島外搬送」とは、主に島内での継続管理や譲渡調整等が困難な個体について、島内外保護活動関係者間の連携により実施された対応を指します。

4. 現在の状況

2026年1月実施の第13回キャンペーンをもって、久米島全域を対象とした一巡対応が完了しました。

一方で、民間協力者による現地調査および過去データ分析から、既に対応済みエリアにおいても、新規多頭飼育化や未手術猫の再発生が点在的に確認されています。

現在、協力関係者による地区別データ、過去対応履歴、現地調査等をもとにした現場分析上では、島内未手術猫数は一定程度まで減少していると推定されています。

5. 今後の方針

現在は、「見えている猫を減らす段階」から「見えていない繁殖源や多頭化リスクを把握し、継続管理していく段階」へ移行しています。

今後は、これまでの現場対応中心の運用に加え、行政側における制度整備、継続運用体制の整理・強化が重要となります。

また、猫問題は行政のみで解決できるものではなく、適正飼育、繁殖防止等について、地域全体で継続的に取り組んでいく必要があります。

そのため、町民一人ひとりの意識向上や適正飼育への理解促進を図りながら、島内外の協力者・関係団体・地域住民等との連携を継続し、繁殖抑制および生活環境対策を進めていきます。

6. 最後に

本事業は、2019年に実施された不妊手術キャンペーンを契機として始まり、現在に至るまで、島内外のボランティア、協力団体、保護団体、関係者等の協力を受けながら継続されてきました。2019年当初から、多くの民間協力者による継続的な現場対応や情報共有等が積み重ねられ、現在の運用体制へ繋がっています。

これまで長期にわたり協力いただいた関係者の皆様へ、深く感謝申し上げます。

なお、本掲載内容における実績数値、過去対応履歴、地区別整理等については、事業開始以前より継続的に現場対応、地区調査、個体管理、情報蓄積等を行ってきた島内在住協力者らから共有された長期的な現場情報等を参考に整理しています。

今後も、継続的な繁殖抑制および生活環境対策を進め、町民の皆様が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきます。

沖縄県久米島町